

舞台裏から

ESC 実行委員 佐々木由華

私達が第5回英語スピーチコンテスト(以下第5回ESC)をやるにいたって一番心配だった事は、このコンテストを本当に成功させられるのだろうか……という事です。なぜかというと、去年からのスタッフで第5回ESCを発足させる時点のスタッフが私達(同じ英米文学科2年の菅井裕子さんと私)だけの、たった二名しかいなかったからです。去年からのスタッフと言っても、私達がESCの実行委員に加わったのは11月頃で、残りの仕事といったら舞台の設営やビラの配布くらいでした。その為、準備をしようと思っても何をしたら良いのか、どういう手順で事を進めていけばいいのか全くわからず「やっぱりやめようか……。」と、とても悩みました。しかし、先輩方が築き上げたこの素晴らしい行事を私達の代でやめる事は出来ない!! と思い、わからない事だらけのゼロの状態から始めました。大体の仕事内容は、全部門の応募要項と応募用紙の作成・郵送(郵送は高校生の部のみで、大東受験校トップ100校と去年出場して下さった高校)、先生方への協力依頼書の作成、ポスター作り、情宣活動(大東HPの掲示板への書き込み、学部説明会・TOEFLなど試験会場での出場呼びかけ、学内や駅・英会話教室・市役所へポスターの掲示依頼)、舞台設計・設営、DHKやフォルセス・撮影業者の方への協力依頼、パンフレット作りなどです。そして何よりも重要なのはスタッフ集めです。人員がなければ企画倒れになってしまいます。幸いな事に10月頃新しいスタッフが6名増え、二人でやっていた

時より多少楽になりました。

最初の応募人数は、大学生の部：19名（その内、日本人の男性4名・女性13名、留学生の男性1名・女性1名）、高校生の部：9名（男性3名・女性6名）、社会人の部：2名（二人とも男性で一人は大東の東松山教務事務室の方）です。予選会は大学生の部のみ行い、本選に残った大学生は10名（男性3名・女性5名、留学生2人）です。高校生の部、社会人の部は変わっていません。司会は、私と私のサークルの友達で経営学部2年の上原宏太という人でやりました。

第5回ESCのスタッフを終えて今思うことは、「諦めずに最後までやってよかった。」という事です。また、私達を最後まで支えてくださった国際交流センターの方々をはじめ、全くESCの仕事と関係がないのに手伝ってくれた友達へ感謝の気持ちでいっぱいです。

作業中は辛い事も多く、何度も意見のくい違いなどで衝突したこともありましたが、しかしその衝突も決して無駄にはなっていないと思います。ぶつかり合った事で、より強い絆が出来、絆が強くなった分信頼も強くなったと私は思います。

（英米文学科 2年）